

綾瀬市のロケツーリズムの取組みについて

—ロケ地や市内撮影作品を活用した観光事業—

綾瀬市産業振興部商業観光課主事 相原 沙緒里

国土交通省観光庁は、「ロケツーリズムとは、映画・ドラマのロケ地を訪ね、風景と食を堪能し、人々の“おもてなし”に触れ、その地域のファンになること」と定義している。

綾瀬市では、2014年4月に官民一体組織「綾瀬ロケーションサービス」を設置し、設置以来、数多くの映画やドラマ作品等のロケーション撮影（以下「ロケ」という。）を誘致し、ロケ誘致推進の目的である「ロケツーリズム」による誘客促進、地域経済の活性化につなげている。

本稿では、これまでに実施してきた本市のロケツーリズムに関する具体的な取組みを紹介するとともに、今後の展望について報告する。

1 はじめに

綾瀬市は神奈川県ほぼ中央、都心から約40kmに位置し、面積は22.14km²で人口は約8万3,000人を有する。西に大山・丹沢連峰を望むとともに、カワセミやアユ、ホタルが見られ、都心部からさほど離れていない土地でありながら、市の中心部には広大な畑が広がる自然豊かな地域である。

また、市北東部には行政面積の約18%を占める厚木基地が存在している。

特出した観光地がない綾瀬市で、いかに誘客を促進し、地域経済の活性化につなげていくか。ロケツーリズムの取組みは、そんな綾瀬市にとって観光事業の1つとして始まった。

2 ロケとグルメによる地域活性化事業について

(1) 背景

全国的に同じ問題を抱えているが、綾瀬市の将来人口は減少することが予測されており、また、市内の産業、特に商業では、大型店による個店の淘汰が進んでいる。これは、地域の資金の市外流出を招くのみならず、地域にかけがえのない存在である個店

が減ることで、「綾瀬らしさ」が失われつつある状況であり、地域に新たな消費を呼び込むためには、観光振興及び商業の活性化が必要とされている。

そこで、2013年4月に「あやせ商業者パワーアッププロジェクト」が立ち上がり、有識者の助言のもと、「ロケとグルメによる地域活性化事業」が始動することとなった。

(2) ロケとグルメによる地域活性化事業

ア あやせ商業者パワーアッププロジェクト

商業者をはじめとする事業者や生産者、市民を中心に構成された本プロジェクトでは、メンバーが有識者からロケの受け入れ体制等について学び、市内の農産物を使用したロケ弁当の試作品を開発するなど、ロケ誘致を通じてまちを盛り上げていくための話し合いが進められ、本格的にロケを受け入れるための準備を行った。

イ あやせ市ブタッコリ～ロケ隊

あやせ商業者パワーアッププロジェクトメンバー内において、より事業を発展させていくため、綾瀬

の特色を出したグループの名前を付けたいという声が高まり、2014年4月に「あやせ市ブタッコリ～ロケ隊」(以下「ブタロケ隊」という。)が組織された。

3 綾瀬ロケーションサービス設置によるロケ誘致の促進

綾瀬市は、観光地はないものの、都内からの交通の便の良さや何気ない風景の多さが、撮影しやすいロケ地としての魅力であると考えられる。

加えて、ロケ誘致を促進するには、事前調整の細やかさから、当日の撮影を円滑に進める支援まで、撮影しやすい環境を整えることが重要であると認識している。

ア 綾瀬ロケーションサービス

2014年4月、市内における映画、ドラマ等のロケ受け入れ開始に伴い、支援並びに誘致する機関として、官である「市」と民である「ブタロケ隊」との官民一体組織「綾瀬ロケーションサービス」を設置した。

市がロケの問い合わせ窓口となり、さまざまな経歴の方が所属するブタロケ隊と連携することで、映像制作関係者からの多岐にわたる要望に、スムーズに対応することができる。

イ 綾瀬ロケーションサービス推進協議会

2015年2月、ロケの誘致活動及び市内全域における撮影環境の整備を図るために設立された。関係機関相互の連携と協力体制を整え、地域経済の活性化並びにシティセールスに寄与することを目的に活動している。

協議会には委員や顧問として、綾瀬市商工会・JAさがみ・綾瀬青年会議所・大和警察署・神奈川県・海上自衛隊・米海軍厚木航空施設・公共交通機関・関連民間企業等が参画している。

4 ロケツーリズムの取組みについて

(1) あやせとんすきメンチ

市内産の豚肉を贅沢に使った、郷土料理「豚すき」を具材にし、ゴボウやしらたきの食感が癖になるオリジナルメンチカツである。

開発の経緯としては、あやせ事業者パワーアップ

プロジェクトにおいてロケ弁当の開発を進めていた中で、ロケ弁当で使用できるおかずの一品として、養豚業や農業が盛んなことから、郷土料理「豚すき」とメンチカツを組み合わせた商品が考案されたことにより、2016年4月、ブタロケ隊と商工会、綾瀬市が3年の歳月を費やし、初のご当地グルメとして製品化。市内3店舗で販売を開始した。

2020年5月には派生商品として、市内産バラ酵母を使用したバンズにあやせとんすきメンチを挟んだ「とんすきメンチバーガー」が発売された。

2023年8月時点では、取扱店が8店舗となり、総売上食数は10万食を超えている。

図1 あやせとんすきメンチ



(2) ロケ地ツアー

2016年度から2019年度までに4回開催し、のべ151人が参加。毎回定員を超える申し込みがあり、リピーターや市外からの参加者も多く、人気が高いイベントである(2020年度から2022年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大等により中止となった)。

ツアーの内容は、実際のロケに提供されたロケ弁当を昼食に挟みながら、市役所を含む市内のロケ地やロケ地看板をバス等で巡り、ロケ地でのなりきり写真の撮影やブタロケ隊によるシーンの再現を楽しむことができる。

参加者からは「普段入れない場所も見られて撮影の裏話も聞いた」、「ロケ地を巡るだけでなくスタッフの方々が色々な趣向を凝らした演出を見せてくれたのがとても楽しかった」などの声が寄せられた。

(3) ロケ地 MAP

2016年度から、市内で撮影された映画やドラマ等のロケ地を広く周知し、訪れた作品ファンがロケ地巡りを楽しめるようにするため、ロケ地 MAP を作成している。

内容は年度によって異なるが、シーン写真や撮影エピソード、ロケ地情報のほか、名産品、グルメ情報を多数掲載している。公共施設をはじめ、市内飲食店、近隣の鉄道各駅に配架しているが、県外からの送付依頼があるほど人気が高い。

(4) ロケ地看板

2017年度から、シーン写真を見ながらロケ地巡りを楽しむことができる取組みとして、全国初となるシーン写真入りロケ地看板の設置を進め、2023年8月時点で21基設置している。

ロケ地看板は、市ホームページやロケ地 MAP で紹介するほか、2013年度から開催している自転車等で市内を巡るスタンプラリー「びゅ〜とあやせ」のチェックポイントに設定するなど、観光資源としてイベントと組み合わせ、誘客促進につなげている。

(5) 市役所 1 階 ロケ地コーナー

2018年度に、市役所 1 階市民ホールのリニューアルに合わせて、ロケ地コーナーを設置。ポスターやサイン色紙等の展示を行うことで、作品の PR 協力や市民の郷土愛及びシビックプライドの醸成につながっている。

(6) 綾瀬市を舞台とした映画製作

ア 短編映画『ルーツ』

2019年1月、市制施行40周年を記念して、綾瀬ロケーションサービスや株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーなどで構成する映画製作実行委員会において、綾瀬市を舞台にした地域発信型映画（短編映画）の撮影が行われた。

この映画は、全ての撮影を市内で行う初めての作品であり、完成した作品は、2019年4月に開催された「島ぜんぶでおーきな祭－第11回沖縄国際映画祭－」で上映され、その後、市内でも「凱旋上映会」として、本映画の上映及び出演者等によるトークショーとお笑いライブを一体的に開催した。

その後、国内の映画祭へ出品し、「札幌国際短編映画祭」や「Kisssh-Kissssssh 映画祭」、「あわら湯けむり映画祭」、「日本芸術センター第11回映像グランプリ」、「福井駅前短編映画祭2019」などにて入選。公益社団法人映像文化製作者連盟主催の「映文連アワード2020」では、パーソナル・コミュニケーション部門優秀賞を受賞した。

また、現在も市民や自治会、団体などへDVDの貸出しを行い、郷土愛の醸成を図るとともに、市の事業等で活用し、市内外へ広く発信している。

イ 短編映画『たまには、大きな声で』

2020年2月、綾瀬市が舞台となる短編映画第2弾の撮影が行われた。この映画は、クラウドファンディングにより主演女優や監督のファンなどの協力のもとに制作されたもので、本市ロケーションサービスは、ロケ地の提案や撮影協力を行い、ほとんどのシーンが市内で撮影された。

2022年1月に開催した綾瀬ロケーションサービスシンポジウム（新型コロナウイルス感染症の拡大等により、動画のオンライン配信にて開催した。）では、本映画の上映会を行い、主演女優や監督がゲストとして登壇した。

ウ 短編映画『クラウンの葬式』

2020年12月、綾瀬市が舞台となる短編映画第3弾の撮影が行われた。この映画は、短編映画『ルーツ』の監督により撮影された作品で、全ての撮影が市内で行われた。国内外の映画祭に出品し、第1回パルマ短編映画祭では審査員特別賞を受賞している。

(7) 市内撮影作品とのタイアップ事業

学生時代を綾瀬市で過ごしたさかなクンの半生を描いた初の自叙伝が『さかなのこ』として映画化され、さかなクンの出身校の市内小・中学校でも撮影が行われた。

そして、2022年9月、本映画の公開に併せて各種タイアップ事業を実施した。

本事業は、ロケ誘致開始以来の作品を活用した大きなタイアップ事業となり、「権利処理」と呼ばれる作品活用に必要な手続きについて、研修会へ参加するなど理解を深めてきたことが成果につながった

と考える。

ア 映画『さかなのこ』パネル展の開催

2022年8月15日～9月2日の19日間、市役所1階市民ホールにて、映画やさかなクンに関するパネル展を開催。撮影に訪れた出演者のサインやシーン写真、さかなクンが学生時代に作製したカブトガニのはく製や直筆のイラスト等を35点展示した。

同展には、さかなクンも訪れ、直筆のイラストが描かれた横断幕等を寄贈いただいた。総来場者数は約7,000人で、展示内のメッセージボードには、長崎県から訪れた方の書き込みもあった。

イ オリジナルTシャツの作成

映像制作会社から作品のロゴを提供いただき、綾瀬ロケーションサービスでデザインしたTシャツを作成。映画『さかなのこ』パネル展や市イベント等で、職員及び関係者にて着用した。

ウ 広報あやせ掲載

市広報誌「広報あやせ」の表紙及び中面に、作品概要や映画『さかなのこ』パネル展の開催情報を掲載。表紙にはシーン写真を使用し、市民に広くPRし反響を呼んだ。

エ ロケ地看板・ロケ地MAP

公開日には、撮影地となった中学校の校門付近にロケ地看板を設置。その後は市役所の正面玄関に設置している。

また、シーン写真が表紙の「綾瀬ロケ地MAP2022」を発行。誌面には、さかなクンからのメッセージも掲載され、市内各施設等のほか、新宿や渋谷など都内の劇場に配架した。

図2 ロケ地看板



図3 綾瀬ロケ地 MAP2022



(8) 綾瀬ロケーションサービスサイト

2023年2月、市ホームページのリニューアルに合わせて、市ホームページ内に「綾瀬ロケーションサービスサイト」を新設した。

綾瀬ロケーションサービスの紹介をはじめ、映像制作関係者向けに市内ロケ候補地の静止画像、360°画像を掲載することにより、ロケ地探しの利便性向上とロケ誘致業務の効率化を図り、ロケ誘致を促進している。

その他、ロケ弁当の取扱事業者や撮影等での差し入れ、お土産に最適な名産品や地場産の食材を活用して開発された商品を紹介するなど、本市独自の情報発信ツールとして内容の充実に努め、ロケ地として選ばれる環境を整備している。

5 おわりに（今後の展望）

映像を通してまちが映し出されることで、一人ひとりが自分たちの住む地域や暮らしの価値を再発見し、シビックプライドが醸成され、ロケツーリズムの取組みが持続可能なものとして市民に大きく波及効果をもたらす還元されていくものとする。

綾瀬市では、綾瀬ロケーションサービスを発足してから9年が経過し、官民連携による受入体制や綾瀬スマートインターチェンジ開通によるアクセス向上などにより、2023年8月時点で165を超える作品が市内で撮影された。

また、撮影施設使用料や市内事業者へのロケ弁当発注額、あやせとんすきメンチ販売額等による直接経済効果は約3,800万円であり、着実にロケ誘致による効果は現れてきている。

しかし、実績やPR手法は確立してきているが、綾瀬市には元来、充実した観光基盤や商業基盤がなく、ロケツーリズムの取組みが十分に域内消費に結びつけられているとは言い難い。

他自治体においては、準備段階から映像制作会社と連携し、地元住民を巻き込んだ作品製作を行い効果的なPRを行うほか、撮影に必要な美術セットを地元事業者が発注し、経済効果に結びつけている事例もあり、地域の実情に応じたさまざまな取組みが見受けられ、綾瀬市でも他自治体の先進的な取組みを学びながら取り入れつつ、独自のロケツーリズムのあり方を検討していく必要がある。

今後はより一層、ロケ地を観光資源として活用し、さまざまな観光事業に絡めた事業展開を進め、誘客促進に取り組むとともに、市内事業者や市民がロケに参画できるような体制を整え、ロケを活用した事業展開までを一体とした域内消費につながる仕組みを構築し、ロケツーリズムによる地域経済の活性化につなげていきたい。